

令和4年度 第2回高知県スポーツ振興県民会議
地域スポーツ推進部会 議事要旨

日時:令和4年 10月 17日(月)13:30~15:30

場所:高知県立文学館1階ホール

出席:部会員 10名中9名が出席

議事:

- (1)令和4年度スポーツ施策の進捗状況について
- (2)第3期高知県スポーツ推進計画について

1 開会

2 議事

(1)令和4年度スポーツ施策の進捗状況について

- 事務局から議事(1)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(田井部会員)

○資料P8のリモートについて、自分たちもリモートでの体操教室を行っているが、他の団体がどのようなリモート機器を活用した取組を行っているかを参考に教えて欲しい。

(事務局)

- ヨガ教室、ダンス系の交流教室、バレーボールの指導、ボッチャの指導、健康体操、スポーツに関する会議等で活用していると伺っている。

(古谷部会員)

○活力ある県づくりの部分で、アマチュアスポーツ、プロスポーツにおいて合宿や大会誘致を行うことにより県内の経済波及効果が期待できる。今後2月、3月に向けた誘致の進捗状況を知りたい。また、懸念していることとしてインフルエンザとコロナが12月~1月に同時流行した場合、合宿や大会などへの対応についてどのようになっているか。

(事務局)

- プロスポーツについては現状を維持し、感染予防を徹底したうえで、観戦をする来客人数を増やす取り組みについて、県としてできる範囲で支援をしたいと考えている。アマチュアスポーツについては、高知県内で合宿をした実績のある団体に直接連絡をとることが一つ。県全体として関西圏との繋がりを強化しているので、関西圏の企業とのつながりや、県他部局の取組の中にアマチュアスポーツの合宿誘致を盛り込んでもらうことが2つ目。3つ目が、市町村との連携になる。合宿の誘致は高知市近郊での受け入れが中心であったが、近年、高知市近郊以外の黒潮町に代表されるように市町村での合宿誘致が多くなってきた。ただ、マンパワー不足等で受け入れが困難と考えている市町村にヒアリングも行い、この施設であればこの競技の実施ができることを見定めたいと、Webプロモーションと絡めて市町村と連携しPRを進めていきたいと考えている。
- 大会の今後の見通しについては、次のコロナの波が来た場合に、大きな大会については開催が心配

されるが、全国的な動きをみると、何らかの制限があるにしても開催していく方向をとっている。高知龍馬マラソンについても、なんとか開催したいとは考えているが、スタッフの確保が心配である。観戦拡大の状況にもよるものの、完全に止めるというよりも、何らかの対策をとった上でなんとか開催できる方向で動いていきたいと考えている。

(古谷部会員)

○サッカーをしている小学生の保護者から聞いた内容だが、今は色々な場所で芝のグラウンドを使って活動できる。県や市町村が努力された結果と思っている。環境が整うことで競技力があがると思うので非常にありがたいとの声があった。

(事務局)

●施設の整備については課題があるが、関係者の意見を収集していきたい。

(公文部会員)

○施設について、例えば、黒潮町の施設でクラブハウスがあれば全国大会を誘致できるなど、あと少し何かを増やすことで全国規模の大会を行うための施設基準を満たすことなどができるので、より活用しやすい状況になるようお願いしたい。

○黒潮町がセレッソ大阪堺レディースと連携している。試合会場で黒潮町のブースを出してPRをした。約3,000人の観客が集まり黒潮町にチーム合宿で行ってみたいとの具体的な声もあった。ガイドブックを持ち帰る方が多くいた。関係性のあるところにはWebだけでなく積極的に現地で直接PRをしに行くことも大事。

○リモートの活用について、例えばユナイテッドの試合がリモートでライブ配信され、300~400人が視聴している。配信した内容がどれくらいの方が見ているかという点に関心をもっておくとよい。

(事務局)

●現地でのPRについて、しっかりと検討したい。

(國則部会員)

○P14の自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進の中で「Webサイトの構築」があるが、どのようなWebサイトになっているか教えて欲しい。

(事務局)

●高知県スポーツコミッションに県から委託をして、月2回の打合せを行いながら、本年12月のプレ公開に向けて、県内各区市町村のアクティビティ（サイクリング、カヌー等）にスポットを当てた記事を前面にだし、また、スポーツだけでなく、スポーツを通じて観光に結びつけられるように周辺の食事や観光情報を載せられるようにサイトを構築している。

(前田部会長)

- 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの実績についてイベントの参加者をカウントするのか、それとも、日常的にアウトドアスポーツをしている人数をカウントするのかという点について教えて欲しい。

(事務局)

- 合宿や大会等のカウントがとれるものを目標値としている。ただアウトドアへの参加数でも、例えば海岸で個人がサーフィンをした人数まではカウントできないので、課題と考えている。

(前田部会長)

- 参加者を把握するために事業者の方と連携するなどできればもう少しクリアになる。
- 指導者について、スタートコーチ（スポーツ少年団）が100名の目標を達成しているが、資格を取得されている方の年齢層や今後の活躍の場などについて教えてほしい。

(県スポーツ協会)

- スタートコーチについて、年齢層は幅広いが、40～50歳代が多い傾向となっている。資格については、スポーツ少年団における指導者資格制度がかわり、今後は公認指導者資格がないと指導ができなくなるため、いま現在資格は持っていないが現場で指導をしている方々に対して、スタートコーチの研修を進めているところ。

(2) 第3期高知県スポーツ推進計画について

- 事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(北村部会員)

- 資料3の③の白丸の2のところの、「地域コーディネーター」が指すものとしては、県が養成する障害者スポーツ指導員のことなのか、障害者スポーツセンターが依頼をしている障害者スポーツのコーディネーターのことなのか、どちらになるのか。

(事務局)

- 障害者スポーツセンターで西部地域等で配置いただいている地元のコーディネーターの方をイメージしている。

(北村部会員)

- 「障害者スポーツコーディネーター」という表現にすることができれば混同することが避けられるため、文言の修正をお願いしたい。
- 質問になるが、障害者スポーツ選手の発掘という点で、令和9年に25人という具体的な目標があるが、現在、特別強化選手がいてその下に普及のための強化選手がいる状況だが、発掘された選手は、この二つの間にはいるイメージなのか。

(事務局)

- 特別強化選手とそれ以外の強化費による支援をさせていただいている選手の間に入るのではなく、発掘の事業の中で、中央競技団体の登録につながった方を対象としている。

(葛岡部会員)

- 運動が好きな子どもを増やすことに関連して、実際にあった事例をお話します。昨年この時期、小学生の高知県大会の決勝があった。決勝に残って出ることができる選手達が足が痛くて辞退した。リレー競技だけ出たいと言うことでリレーだけは出た。試合に出れないというのはとても辛い。何が起こったのかというと、地域で陸上大会が行われ、そのための練習は学校で行われる。朝練・夕練の1日2回の練習を運動会終了後、急に毎日行う。今までやっていないことを急に行うので、体に無理が生じる。その無理がある中で、指導する先生は練習に参加している子ども達に対して、休んだら大会に出さないよという言葉をかける。子ども達は休んだら出れないと思い、小さな頃から陸上をやっていたので、自分が出たいから「痛い」とは言えない。その中で我慢して我慢して、県大会で子どもが痛いと言ってきた。私は体が痛い場合は試合に出場させないので、その子は試合には出れなかった。この状況を教育委員会にも話をし、「対応します」ということだった。大会の時に学校長とも話をした。学校長には、子どもの体にウォーミングアップをして、順番に出力を上げていって、大会に出られる体づくりをしていることを伝えた。遊んでいる子どもと競技をしている子どもの体が違うという話をした。そうすると学校長は、「自分の担当外であるから」ということを言って立ち去って行った。子どもをみる学校長には子ども達の体について理解をして欲しいと思う。学校の現場でこういうことを言われてとても残念であった。今年は、全員試合に出ることができ、自分としては良かったと思っている。先生や指導者の子ども達に向ける言葉や体づくりについて理解していただかないと、子ども達がスポーツを楽しむ前に嫌になってしまうように思う。脅しとかびっくりするような言葉を子どもにかけていることを耳にすることがある。子どもにとって指導者の言葉はすごく影響があると思うため、是非考えて欲しい。環境づくりが子ども達の楽しい運動をつくっていくと思うので、その点で有効な施策を打ち出して欲しい。
- 女性のスポーツ参加について、ある女性の方とお話をさせていただいた際に、スポーツ団体には属さないと話していた。理由は、どこの団体にいても、男性が女性を下にみる傾向があつて対等なものと言えない環境があつて今までどこにも所属していないと話していた。これは一例ではあるが、スポーツの中で皆と一緒に何かを共有するという意識をもってすれば、女性も参加すると思う。そうしたことができる環境作りをし、皆が承認する意識を持てば、楽しくスポーツをすると思う。できないことをできないとするのではなく、できることを承認する環境づくりが大事だと考える。

(事務局)

- 子どもに対する指導の部分は年齢、技術レベル、将来的なことを考えたアプローチが重要であるため、指導者の研修を通じた資質向上を行いたい。体については、スポーツ医科学面からの支援、教育委員会との連携を通じて、指導者の指導力の向上につなげたい。女性のスポーツについても、県内で活躍する女性の方に注目するというのもあると思うので、県の情報発信サイトも活用して女性の活動を目に見える形で発信したい。

(前田部会長)

○様々な地域を回っているとまだまだそういう指導者の方はいると感じており、先程の部会員の話には共感するところがある。指導者について、資格の人数の目標があったが、質の部分で暴言や体罰が起こらないようにカバーする仕組みはあるかどうか、また、研修を受けることで暴言暴力をなくすことを指導者が身につけることができるのか。現在、全国的に問題になっている指導者は恐らく研修を受け指導者資格を持っている人達だと思う。

(事務局)

●既存の資格取得の講習の中では、子ども達に対するアプローチの仕方を学ぶ内容も含まれているが、より実践的に行うという内容ではないと思われる。有資格者がどんな活動、指導実践となっているかについては課題があると思う。ただ、資格取得をすることで気づきを与え、より実践的な学びの機会につながると思う。スポーツコミッションの取組等を生かし、より現場で実践的な学びの場をつくりたいと考えている。

(田井部会員)

○地域スポーツの中で総合型地域スポーツクラブの果たす役割は大きいと考えている。中山間地域のスポーツ参加に課題がある中で、県は総合型地域スポーツクラブに対してどのような支援を行う考えなのか。

○女性のスポーツの参加について、競技スポーツに参加する女性が少ないと感じている。昔と違い、いまは子育てに父母の双方が参画するようになっているので、子育て世代の方々をスポーツへ参加することは難しいと思うため、親子参加型のスポーツ環境づくりも重要と思う。

○ボランティアについて、20年前はボランティアがたくさんいたが、いまは家庭を優先する傾向があって、ボランティアになる人が少なくなってきた。また、ボランティアでも無償ではなく、いまは有償ボランティアの方も多くなってきている。そうすると有償ボランティアに対する予算確保も考えなければならない。これまでのようにボランティアが無償でということではなくなっている。

(事務局)

●総合型地域スポーツクラブへの支援については、県がすべての市町村やすべての総合型地域スポーツクラブに細かく支援をするのは難しいと考えている。総合型地域スポーツクラブの活動はそれぞれの市町村や地域地域での取組みが主となってくる。基本的には各市町村の方が新規でどのように支援を考えるのがベースになると考えている。ただ、広域で取り組む必要があることや、総合型地域スポーツクラブをまとめる県スポーツ協会の動きや総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の動きは組織として、県内の総合型地域スポーツクラブをとりまとめる形で支援をしているので、その組織の動きに対して県が支援をすることは必要と考えており、現在も支援をさせていただいている。ただ、個別の動きについても、県の施策にあわせて地域で原動力となっている総合型地域スポーツクラブの後押しをすることで、県全体のスポーツ振興につながると捉えられるものについては、支援をしていくことを検討する考えはある。

●女性・ボランティアのご意見については、参考にさせていただき、計画に反映させていきたい。

(古谷部会員)

○高知県の少子化に向けた対策をスポーツだけではなく各分野でより真剣に検討が必要。子ども達の為にスポーツの環境を充実させる必要がある。ボランティアについても30代など子育て世代ではない、退職された60代～70代の方々などに協力をしてもらう方向がよい。また、暴言や暴力が起らないような観点で、安全・安心なスポーツの環境づくりを進めて欲しい。

(事務局)

●子どもの少子化に関連する部分は市町村によって実情が異なるので、県も地域の実情に寄り添って、地域や市町村でどのように考えるのかについて後押しをしてきたい。

(公文部会員)

○少年団の交流の拡大だけでなく、子どもの体調やケガ防止など、オーバーワークにも注意して欲しい。あわせて、子どもがケガをした場合、医師の対応が十分でなかった。その後のケガした子どもへのケアなど対処法がわからず、スポーツ科学センターの方に相談しトレーニングサポートなどで対応した。スポーツドクターなどの存在もあるが、ケガをした時にどこに行けばいいのかなど、具体的な助言・アドバイスなどがあればありがたい。

○選手への暴言の話で、サッカー協会はウェルフェアオフィサーの存在があり、大会の現場で指導者の高圧的な言動への対処・指導をしており、暴言などが少なくなっているのも、そのような仕組みがあればいいのではないか。

○障害者スポーツの招致では、黒潮町で夏にアンプティーサッカーの西日本大会が開催されていた。障害者スポーツの理解啓発にもつながるので大会開催をより積極的に情報発信をしていけば広がりがあると感じる。

○女性のスポーツについて、生涯スポーツと関連し子育て世代の方と子どもとセットでフェスティバルを開催。子どもの活動にあわせて大人の活動の場を作っている。日本サッカー協会より女子のフェスティバルの開催を指示されている。レディースやガールズなど計画しているが新規で参加する子ども達が少なく、今後どのようにつなげていくかが課題。日本サッカー協会はディズニーと契約し小学校3年生以下の新規で参加した子どもにボールを渡してあげることなどを参考に、参加者にボールを抽選で渡している。道具があることで女子でもボールを蹴るきっかけになっており今後につなげている。

(事務局)

●具体的な情報提供をいただいたので、来年度以降の計画での取組に反映させていきたい。

(川村部会員)

○部活動の地域移行について、6月に県中体連理事会で県として地域部活動を大会に参加できる規定を設けた。その後、日本中体連が全中大会がある16競技各競技ごとに参加規定を定めるように指示があり各競技団体で規定を設け10月に日本中体連がスポーツ庁に報告。開始時期や団体・個人などの競技によって内容が各団体バラバラであった。現在検討中。

(事務局)

- 補足として、資料3の「子どものスポーツ環境づくり」は、部活動の地域移行についても含まれているが、部活動をどうするかだけの視点ではなく、なおかつ、国の有識者会議が示している部活動の地域移行を来年度以降の3年間で何が何でも地域移行を行うということではないと現状では捉えている。地域の実情に応じて、この機会を捉えて、地域で対応していくことが地域にとってプラスの面があれば地域移行を進めていくことになるでしょうし、逆に地域移行が難しい、課題が多すぎる場合は学校での部活動を継続することになるでしょうし、生徒・児童、保護者の想いを踏まえながら地域地域での議論をどのように支援できるかを考える必要がある。単に学校部活動をどうするかということだけではないと捉えている。

(島崎部会員)

- 部活動の地域移行における「地域」とはどの地域を指すのか。

(事務局)

- 部活動を学校外に出して、地元で対応して受け皿となっていただくことを考えたときに、「学校の部活動」を学校外に出すということなので、検討は各市町村の教育委員会と関係者で行うこととなるので、エリア（地域）としては各市町村ということになると考える。ただ、市町村をまたいで地域クラブが子どもの活動を受けていくことも考えられるし、現状もそうした活動をしているクラブチームはある。必ずしも、結果的に活動範囲が市町村単位だけではないものも出てくると思われる。

(島崎部会員)

- スポーツ推進員としては、研修で学んだことを地域住民に紹介して、簡単なニュースポーツ等を推進するために研修を行っているが、一定の効果が出ていると感じている。県のスポーツ推進員初任者研修があったが、実施後すぐに窪川のほうで、直ちに地域住民への研修を準備し実施する予定となっており、県内各地で実績が積まれていくことと考えている。

(古谷部会員)

- 今後少子化が進むにつれて、子どものスポーツ環境は厳しくなり活動が制限される。学校部活動で教員の方々は精一杯やってくれているが、それでも対応できない事態となる。各市町村は少子化に向けた対策をしておく必要がある。

(國則部会員)

- 東部観光協議会では「教育旅行」を扱っているため、計画の中に「教育旅行」という文言があるとキーワード検索で引っかかりやすくなるので入れて欲しい。

(事務局)

- ご意見を参考にさせていただきます。

(公文部会員)

- 部活動の地域移行について、黒潮町でも地域移行を考えているが国からの通知が出されていないため動けない。お金や移動手手段など不安が多い。分かっている情報があれば提供して欲しい。
- 情報発信について、女性の活躍などの情報で高知県出身の方が国内だけでなく国外でも多く活躍しているため情報発信できればいいと思う。

(川村部会員)

- 越知町からバスケットボールチームの地域移行について相談があり現状では条件が整っていれば地域移行は可能であるが、各競技ごとの全中大会出場規程ではバスケットボール競技については、令和5年度は地域移行したチームの出場が認められていないため、現時点では来年度の地区大会や県予選を含め出場できない可能性がある。
- 地域移行への相談など中体連事務局に連絡いただければ対応可。
- 暴言等については、平成26年度に四国で全中大会を開催し四国の選手・指導者がマナーが良いと評価され、平成30年度から現在もマナーアップ運動を実施している。

(前田部会長)

- 大学の立場から研究室の学生とともに各地域に出て地域部活動、自然資源を活用したスポーツツーリズム、幼稚園児や子どもたちのスポーツ環境、大学生のボランティアなどをテーマに研究している。12月半ばには発表したい。人材については、他県から突然高知で就職するより、雇用の面を含め高知県に愛着をもってもらえる活動が必要ではないかと考えている。

以上